

## 論文要旨

---

なぜ、ファッド群が起こるのか：腐女子の質的研究

修士号請求論文

指導教授:西川英彦教授

法政大学大学院 経営学研究科 経営学専攻修士課程

マーケティングコース

大森 友子

本稿の目的は、なぜ、ファッド群が発生するのかを腐女子の質的調査を通して明らかにすることである。ファッドとは、非常に寿命の短い一時的な流行のことで (Solomon 2014)、ファッションやクラシックに比べ、受容者の数が少ないこと、短期間で流行が消滅してしまうこと、またその内容自体も他者からすれば非常にくだらぬように見えることから、ともすればあまり意味のないものとみなされてきた。しかし、インターネットの普及によって、人々はこれまでのような地縁や血縁の関係ではなく、趣味などの情熱を傾ける対象を通してコミュニティを形成するようになり、流行は国民の誰もが知っているものから、特定のコミュニティのみに拡散するものへと変化しており、ファッドは必ずしも意味のないものではなくなっている。Best(2005)は特定のコミュニティにおいて、ファッドが何度も繰り返し起こる現象をファッド群と呼び、これまで単発の事象として捉えられていたファッドを連続する現象と捉えたが、なぜ、ファッド群が発生するのかは明らかにされていない。流行のサイクルはこれまでトリクルダウン理論で説明されてきたが、こうした理論はファッド群においても援用できるのであろうか。

本稿では、研究対象として、「腐女子」のファッド群をとりあげ、腐女子へのインタビュー調査を通じて、インタラクションの不協和による消費活動や創作活動への意欲減退がファッド群の原因となることを明らかにした。これはトリクルダウン理論が流行のサイクルを、自己をいかに他人より上位のグループに見せるかという欲求で説明するのに対し、消費者同士のインタラクションによる意欲の低下、より良いコミュニティに所属したいという欲求によって流行が起こるといふ、新しい知見を示した。